

現代美術館を東京に作る構想を得た私は、祖父母の邸宅だった建物を利用しようと決め、1979年に原美術館を開設しました。かつての居住空間は、難解と敬遠されがちであった現代美術と観客の距離を縮め、世代や国籍を超えた人々が集う場となりました。多くの才能との出会い、絆は私たちの宝ものです。運営母体の財団名「アルカンシエール（虹）」が示す通り、人と人をつなぐ活動の舞台であり続けた建物は、竣工から82年を経た2021年1月11日、美術館としての役割を終えました。

2021年春より、原美術館の活動は群馬県の「原美術館 ARC」に集約いたします。1988年に別館ハラ ミュージアム アークとして開館した「原美術館 ARC」は、2019年プリツカー賞を受賞した世界的建築家・磯崎新による設計で、建物それ自体が美術作品と言える唯一無二の空間です。2008年には、曾祖父の収集品を展示する目的で、書院造をモチーフとした特別展示室「観海庵」を増築しました。国宝・重要文化財を含む東洋古美術からなる「原六郎コレクション」と現代美術の競演をお楽しみいただけます。また、奈良美智、イサム ノグチ、宮島達男、森村泰昌、李禹煥らの屋内外の常設作品を東京から移設します。ARCの目玉である草間彌生と東芋のインスタレーションや広大な庭に点在する立体作品と合わせ、新たな魅力が加わる「原美術館 ARC」にご期待ください。

“Art is for the spirit.” 今こそ、心にアートを！

公益財団法人アルカンシエール美術財団 理事長

原 俊夫